



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

# かわら版 27号

10月29日の第20ステージは蒲原一吉原である。本隊は蒲原駅から歩き、観光隊は1駅東の新蒲原駅近くの志田邸を見学してから出発する予定。ちょうど観光隊が志田邸を見学しているときに本隊が前を通る。本隊のゴールは吉原駅だが観光隊はその手前吉原商店街の中の「吉原本宿」である。ここでも観光隊が吉原本宿を見学中に本隊が前を通る。ということで本隊の歩行距離17kmに対し観光隊は10kmであった。

平成13年に国登録有形文化財に指定された志田邸は、11月28日(日)の【自分を褒めてやりたい会】にもご出席いただいたJR東海の志田威様の生家です。安政年間(1855頃)に建てられた町家で、蒲原に残る最も古い建物の一つです。元は屋号を「やま六」という、醤油や味噌醸造元の商家でした。現在でも醤油や味噌の醸造に使われた当時の道具や、神棚、提灯を入れる箱など、この日のために用意してくださった品々を大変丁寧に説明していただきました。



志田邸の斜め前にある「教五十嵐市か医院」も平成12年に国登録有形文化財に指定された建物ですが、お座敷で弁当を遣わさせていただいてから自由見学をしました。



岩淵一里塚の近くに「小休本陣」がありました。ほとんどの人が「何だろう、立派な建物だが」と思いつつ通過してしまったので少し報告しておこう。

この建物は町に唯一残った名主及び小休本陣の建物で、江戸末期に建てられたと思われる。常盤家住宅主屋の副名がついているが、常盤家は名主などを務めた

名門の家柄で、現在は富士市にたてものを寄贈しています。富士市は平成12年から15年に渡り復原工事を行い、現在は土日のみシルバーが留守番をして公開しています。

吉原本宿は、吉原宿で創業320年余の鯛屋旅館の一部を「タウンマネジメント吉原」が借りて、歴史資料館・逸品販売所・情報発信コーナーなどまちづくり、集客の拠点として利用している。出発の時切り火をして送ってくれたのはうれしい心配りであった。

